

NPO法人 富山・イタズラ村・子ども遊ばせ隊 イタズラおもちゃグッズの紹介

～ バカになって遊ぶということとその効用 ～



ごあいさつ

早川たかしはどこへ行くにもおもちゃの入った鞆を持って出かけます。鞆にはいつも皿回し用「初級皿」と「ハブ（沖縄の民芸おもちゃ）」・「マジックスクリーン」・「サソリの標本」・「マジックフライヤー」・「スポンジガン」・「ヘビ独楽」など。十数種類の遊びグッズが入っています。いつでもどこでも子どもに限らず人と遊びコミュニケーションがとれるようにと密かに思っているからです。それらおもちゃの選択基準は「ばかばかしさ」「たあいなさ」です。そのおもちゃで遊ぶと相手と「バカになって笑える」からです。その「笑い」で、コミュニケーションが生まれます。子どもとも仲良くなれます。そして、人生が変わるというドラマも生まれます。是非お試し下さい。特に「サソリの標本」はおすすめ。子どもが変わる 家族が変わる 教室が変わる 地域が変わる 人生が変わる 様々なドラマが生まれます。うつ病のお父さんが元気になり会社に行き始めた！そのドラマを共有する「サソリ同盟」に入会あれ。

皿回し（初級皿、中級皿のセット）

大道芸の技である皿回しを「子育て支援」と結びつけてから7年が経ちます。「遊んでこそ子どもは健全に育つ」を旗印にしたNPO法人を立ち上げて講演も多くなりました。講演の合間に皿回しを入れると大盛り上がり。講演後、買いたい！という要望があり、販売もするようになりました。これまで1万5千枚が全国に普及しています。幼児から老人まで不思議に夢中になります。



サソリの標本

昔風の封書のような紙包みには、『台湾サソリの標本』と書かれ、何となくおどろおどろしい。受け取ると、いかにも怪しげで、怖さを誘う。開けてみたいという衝動が走ります。「どんな形をしているのか？」「まだ生きていたのではないか？」「台湾へ旅行した時、手に入れたんだけど…」などとまことしやかに言い、裏面に書かれた台湾（？）の治兵衛さんの解説や学名も読み、「標本が壊れないように静かに開けて」と指示します。

〈注意〉①輪ゴムは30回（半回転を1とします）巻いて仕掛けます。

②驚かした後は輪ゴムは巻かないで保存しましょう。



ハブ（沖縄の民芸おもちゃ）

サトウキビの皮で作られた指に噛みつくとも離れないハブ。そんな怖いものがおもちゃですか？と疑いたくなりますが、沖縄の民芸おもちゃ。手作りでは、紙紐（かみひも）を使って製作しますが、編み方（四つ編みという方法）がまさに一筋縄ではいきません。

作って彼女の指を入れてあげて下さい。どんな反応が生まれるでしょう。大切なのは指の抜き方です。片方の親指とひとさし指の先で、ハブの頭とあごを軽く押さえ（つまみ）ながら引き抜きます。簡単です。決して口をこじあけるようにはなさないように。壊れます。

〈留意点〉〔沖縄〕〔指はぶ〕で検索すると編み方を教えてくれます。

連絡先 NPO法人 富山・イタズラ村・子ども遊ばせ隊 早川たかし

〒930-0138 富山市呉羽町 6454 番地 1 TEL・FAX 076-436-6675

